

MCCOBA 関連イベント

武蔵野市「むさしの環境フェスタ」に出展

むさしの環境フェスタは、市民（団体）・事業者・行政が協力しながら開催する、武蔵野市最大の環境イベントです。様々な団体による計30のブース出展があり、多様な環境テーマについて企画展示が行われました。各団体の取り組みの紹介や環境に関する展示、体験型イベント等を通して、子どもから大人まで楽しみながら環境について理解を深めることができます。むさしの環境フェスタをきっかけに、環境にやさしい取り組みがつながり、広がっていくことを目指しています。

フェスタの中で、環境に優しい乗り物である自転車の安全な乗り方の周知・啓発を行うと共に、MCCOBA等、放置自転車の再生事業について、譲与自転車（人力発電自転車）の展示及び試乗体験や、パネルを用いた取り組みの紹介を行いました。



平成 29 年 11 月 12 日（日） 武蔵野クリーンセンターにて

静岡市・出発式の様子



出発式の様子

静岡市では、平成2年の自転車等の駐車秩序に関する条例施行により本格的な撤去を開始して以来、放置自転車は減少傾向ではありますが、現在も年間約3,000台の車両を撤去しています。海外譲与事業をきっかけに、放置自転車問題について今一度、市民に周知する機会を作ることを目的とし、毎年12月にまとめて自転車を出荷する際に出発式を行っていました。



整備してくれた方々



出発式の展示風景

豊島区での30周年記念イベント

MCCOBAの30周年を期に、これまでMCCOBAが果たしてきた役割を皆様にも知っていただくため、平成30年11月1～2日、豊島区のMCCOBA30年間を振り返るイベントが、同区主催、公益財団法人ジョイセフ共催で開催されました。

MCCOBAについてはもちろん、その成り立ちに関係する放置自転車について、ジョイセフによる妊産婦や女性の命と健康を守る活動について等のパネルを中心とした展示となりました。MCCOBAの活動をご存じなかった来場者の方からは、その活動への好意的な感想のお声や、区内での放置自転車減少の目覚ましい変化の様子に、驚きの感想を述べられる方が多くいらっしゃいました。また、来場者の皆様が特に興味を持たれていたのが、試乗を行っていた人力発電自転車で、こういった仕組みで発電をしているかなどのご質問と共に、自転車を漕ぐことで電球が灯る様子を、興味深く体験されていました。お陰様で2日間の来場者数は、302人となりました。



豊島区本庁舎 としまセンタースクエアにて



カンボジアで行われた技術者育成の様子も



人力発電自転車

鉛筆・再生紙ノートの譲与

荒川区より鉛筆、豊島区より再生紙ノートをコンテナの隙間に同梱して出荷しています。

鉛筆 | 荒川区

荒川区はかつて「鉛筆の街」といわれるほど、鉛筆産業が数多く営業していたことで知られ、最盛期には 80 社を超える会社がありました。現在は約 10 社と減少しています。ムコーバの会員であるジョイセフから、開発途上国では学用品などが不足していることを聞き、区内の鉛筆工業協同組合に話をしたのがきっかけで、太陽鉛筆株式会社から鉛筆の寄贈をいただいています。これまでに 231 万本の鉛筆の寄贈を受けています。これらの鉛筆は印刷等のミスで市場には出荷できないものの、製品としては問題なく、業界では焼却処分していたものです。



再生紙ノート | 豊島区

豊島区印刷関連産業団体協議会より、印刷等作業中に発生する切れ端等の余り紙で何か貢献ができないかとの打診があり、ノートを作成して海外へ送ることとなりました。同団体が、余り紙の調達からノート作成、倉庫への搬送まで行っています。

平成 5 年より継続中で、平成 30 年度で 100 万冊に到達しました。

再生紙ノートは、学用品が不足している途上国の子供たちの勉強や、地域における保健ボランティアの活動記録にも活用されています。



島根あさひ社会復帰促進センター



島根あさひ社会復帰促進センターは、島根県浜田市で国と民間事業者が協働して運営している刑務所です。受刑者の社会復帰に向けての教育プログラムに「自転車の再生整備活動」を取り入れており、MCCOBA 事業自転車の一部を整備依頼しています。

平成 20 年、法務省矯正局より再生自転車海外譲与事業について照会があり、受刑者の教育プログラムに自転車の再生整備を組み込めないかとの相談がありました。同年 11 月に本区とジョイセフで現地を視察し、平成 21 ～ 22 年度にかけて試行の形で受刑者の「仮釈放プログラム」に自転車の再生整備を組んでもらうこととし、平成 21 年 3 月に豊島区より未整備車 85 台と完成見本車 1 台をセンター宛に輸送提供することからスタートしました。

平成 22 年度 12 月より自転車整備事業が正式に開始。豊島区より海外譲与分の未整備自転車を一部提供し、平成 30 年度現在まで毎年、年に 150 ～ 250 台程、整備された自転車を MCCOBA の自転車として、海外譲与する取り組みが続いています。また、災害時には度々、被災地への復興支援物資として、センターで整備された自転車が活用されています。

概要

所在地 ■ 島根県浜田市旭町丸原 380-15

面積 ■ 32 万 5,000㎡

延べ床面積 ■ 刑事施設 9 万 8,557㎡、地域交流エリア 1 万 6,304㎡

職員 ■ 国 約 200 名 民間 約 350 名

収容対象者 ■ 犯罪傾向が進んでいない男子受刑者 2,000 名

開所 ■ 平成 20 年 10 月



自転車に貼付するステッカー

事業内容

豊島区から
未整備車を提供※②

センターにおいて
分解・組立・整備・点検

横浜倉庫へ
整備済み再生自転車を搬入

- ※② 年間 3 回実施（約 4 か月に 1 回 各 60 台）
かご・ベル・サドル等の部品については豊島区の中古品を活用
- ※③ 横浜の倉庫、センター間の自転車輸送費はセンター負担

その他

センターでの再生自転車は豊島区の出荷台数に含まれるが、区別をつけるため、ムコーバシールとは別にセンターシール（右上図）も貼付しています。